

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	IT 対応建築生産システム構築研究小委員会	主 査 名：眞方山 美穂
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (組積工事運営委員会)	委員長名：千歩 修
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築生産において IT 技術を有効に活用するためには建築生産全体を見渡したシステムの構築が必要である。ここでは、工業製品の組合せで躯体を構築するメーソンリーをモデルとし、IT 対応型生産システムの構築について検討する。	
委員構成 (委員名 (所属))	眞方山美穂 (建研)、千歩修 (北海道大学)、守明子 (名古屋工業大学)、根井浩、長谷川直司 (国総研)、高橋和雄 (太陽セメント)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2004 年度予算	60,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会開催：4 回 (6/18、8/28、12/14、2/7)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ IT 技術の活用を前提としたメーソンリー構法による建築生産システムを構築するにあたり、①材料、②構法、③工法のそれぞれの観点において必要となる情報の抽出・整理を行った。 ・ メーソンリーの設計・施工・維持管理において効果的に利用できるようなシステムのフレームのあるべき姿について検討を行った。また、IT 技術の適用を想定し、これまでの研究や実工事等で得られた成果を HP 等へアップロードした場合の活用例について議論した。 ・ 以上の検討作業を進めることにより、これまでのメーソンリーに関する研究成果や、部品・部材等の製品情報が体系的に整理され、メーソンリー構法による建築生産の効率化が図られる。 ・ ホームページでの公開の予定なし。 <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メーソンリー構法を対象に、IT 技術の活用を前提とした新しい生産システムを構築するために必要な情報を整理することができた。これにより、目標は達成できたと評価する。 ・ 最終成果について、各委員相互のイメージを調整することができ、作業の方向性が明確になった。
その他評価すべき事項	